

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2025年12月
第63号
(年4回発行)

新年号

発行部数3千部



丹羽住職インタビュー／引き継いでゆく心

シリーズ浄土宗／念仏往生の教えの継承「二祖対面」

実践教室／仏壇へのお供え「五供」

七福神めぐりウォーキング(新年開運七草粥の会)ご案内

厄払い節分会法要のご案内

丹羽住職インタビュー「引き継いでゆく心」

年の瀬が近づくと、私たちは自然と「引き継ぐ」ということに思いを馳せます。家族の記憶、地域の文化、そしてご先祖への祈り。

今回は、近年増えている「墓じまい」やお墓の継承問題について丹羽住職にお話しを伺いました。



丹羽義昭住職



西願寺 第三十二世念譽義昭晋山式 H22.5.1



問 「引き継ぐ」というと伝統芸能や伝統行事など文化やしきたり、また、親から子へと代々受け継いできたものなど様々ですね。ご住職も、西願寺第三十二世を継承し法灯を引き継がれ現在に至られるのですよね。

住職 はい。私の場合は、前住職が父ですので子どもの頃から西願寺で育ちお檀家の方々とも接してきていたので自然とお寺の事も身についていきましたが、やはり住職を継職する儀式である晋山式を経て西願寺の住職を継承したのだという自覚を改めて持ちました。

問 継承とは、単に物や役割を受け取るだけでなく、それに込められた意味や価値を背負う心構えを持つことでもあるのですね。引き継がれるものには、師弟間や親子間、先輩後輩など身近なところでもいろいろありますね。

住職 そうですね。地域で行われるお祭りなどの行事も代々引き継がれていくものですが、ここ数年、後継者候補としての担い手がおらず行事自体が無くなってしまいう自治体もあるそうです。

問 人手不足だけが原因ではないようです。最近はお墓の継承についての相談も増えてると伺いました。どのような状況でしょうか？

住職 「墓じまい」を考えているという相談が多いですね。遠方に住むご家族や、後継者がいない方などが背景にあるのだと思います。皆さん事情はさまざまですが、ご先祖からずっと続いたきたお墓を閉じることに少なからず後ろめたさを感じ悩まれながら決断される方もいらっしゃいます。

問 経済的な理由から墓じまいを選択される方も少なくないそうですね。墓じまいに向き合うときに大切な事は何だと思われませんか？

住職 一番大切なのは、形ではなく心はどう引き継ぐかということではないでしょうか。今あるお墓がなくなっても、そこに込められた祈りや感謝の気持ちが消えるとは思いません。大切なのは供養の心をどう引き継いでゆくか

なのだと考えます。

問 一般的なお墓や永代供養墓、近年では手元供養などがありますが、供養のかたちは時代とともに変わってゆくものなのでしょうか？

住職 はい、そう思います。かつては、家族が代々お墓を守ることが当たり前とされていましたが、今はそれが難しい時代になってきたと感じています。

ただ、浄土宗において供養とは、亡き人を思い、感謝し、今を生きる私自身の心を整える行いと捉えています。供養の「かたち」は時代とともに変わっても、その「こころ」は変わりません。お墓に限らず、手を合わせる場所や時間を持つことで、供養の心は絶えることなく続いていくのではないでしょう。

墓じまいをされた後も、年忌法要や季節ごとの法事を通して亡き人を偲ぶことは、とても大切なことです。そして、そうした「つなげる心」を伝えて

いくことこそが、お寺の役割であると思はれています。

問 なるほど。「墓じまい」を通して供養の本質について改めて考えるきっかけになりました。最後に、新しい年を迎えるにあたって、読者へのメッセージをお願いします。

住職 年末年始は、ご先祖を思い返す良い機会です。お墓のかたちが変わっても、手を合わせるその瞬間に、仏さまやご先祖とのつながりは確かに息づいています。それを次の世代に伝えていくことが、「引き継いでゆく心」なのだと思います。

どうか皆さまにとって、来る年が心穏やかに、そして感謝と祈りに満ちた一年となりますように。

問 今回のインタビューを通して、供養とは形ではなく心であることを改めて感じました。皆さまどうぞよいお年をお迎えください。

念仏往生の教えの継承



「二祖対面」

二祖対面とは、浄土宗の宗祖である法然上人と中国の高僧・善導大師の夢の中での出会いを指しています。この事は浄土宗では、法然上人が念仏の教えを広める確信を得た重要な出来事として捉えられています。



二祖対面図

法然上人の夢に現れた善導大師

比叡山でひたすらに仏道に励み探究と精進の日々を過ごしていた法然上人は、中国唐時代の僧・善導大師が著した『観無量寿経疏』という書物の「一心にもつばら阿弥陀仏の名をとなえ、いついかなることをしていても、時間の長短に関わらず、常にとなえ続けてやめないことを正定の業という。それは、阿弥陀仏の本願の意趣に適合しているからである」という一文に深く感銘を受け念仏往生を確信します。

ある夜、法然上人が見た夢は、西方の空に紫雲が現れその中から腰から下が金色に輝き上半身は黒染の衣をまとった善導大師でした。そして「あなたはお念仏の教えを広めようとしている。それが尊いのであなたの前に現れたのだ」と告げられます。

念仏の道を受け継ぐ

法然上人は、善導大師の著書『観無量寿経疏』を読み、「偏依善導（ひとえに善導に依る）」と宣言しました。この法然上人と善導大師の夢の中の出会いは「二祖対面」と呼ばれ、法然上人が善導大師から念仏往生の教えを承継し、それを弘めることを後押しされた証と受け止められています。

五供（ごくう）

仏壇へのお供えは、香、灯明、花、飲食、浄水の「五供」と呼ばれる五つの要素が基本です。浄土宗では、これら五供を通じて阿弥陀さまへの敬意と感謝を表し、念仏とともに日々の供養を行います。特に「香」と「灯明」は、朝のお勤めの際に欠かさず供えることが多く、仏前を清める大切な役割を果たします。



灯明（とうめい）

灯明は、阿弥陀さまの智慧と慈悲の心を表しています。ロウソクの火には闇をなくし、周囲をはっきりと見えるようにする働きがあり、周囲を明るく照らすその光は永く深い私たちの心の闇をも一瞬にして破る智慧の光明を意味しています。

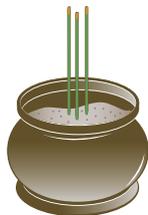
また、そのぬくもりで固く閉ざした心を解きほぐしてくださる阿弥陀さまの慈悲の心を表していると言われています。

香

浄土宗のより

どころとする經典のひとつ「大無量寿経」にある四十八願の中にはお浄土が芳しいお香でいっぱいになるようにという願いがあります。

お香を焚くことで体臭を消し、部屋全体を清浄な香りで満たします。それにより心身を清々しく、安らかな気持ちで仏壇に向かうことができます。



供花

仏教の中で、お花はお釈迦さまがご存世の頃から盛華や散華などさまざまな方法でお供えされました。

日頃私たちが手を合わせているお仏壇は、お浄土のすがたを表しています。ですから、そこに生けている花が枯れたままになることのないよう、枯れないうちに新しく生け替えたり、水の入替をするなど毎日のお仏壇のお給仕を大切にしたいですね。



お仏飯とお供物

食物のお供えには、お仏飯と一般にお供物と言われる、餅、菓子、果物などがありません。お供えものは仏さまへの感謝の気持ちを表します。私たちが生きていく上で欠くことの出来ない大切な物をお供えすることは阿弥陀さまの恵みをよるこぶ意味があるのです。



「おさがり」を頂く

仏壇にお供えたものを頂くことを「おさがり」と言います。おさがりは、仏さまに感謝の気持ちを込めて供えたものを、再び私たちが頂くことで仏さまとの繋がりを感ずる行為です。お供えしたお供物は「仏さまからのおすそ分け」としてありがたく頂きましょう。

遊馬・柳島 七福神めぐりウォーキング (新年開運七草粥の会)のご案内

日時 令和8年1月7日(水)
※10:00~12:00の時間内で
巡って頂きます。

参加費 100円(※保険料として)
毎年恒例となった新年開運七草粥の会。
コース内七か所の寺社寺院を巡りゴールの西願寺では七草粥が振舞われます。



厄払い節分会法要 (豆まき)のご案内

日時 令和8年2月3日(火)

10:00 受付
10:30 節分会法要
11:30 豆まき

令和8年度に前厄・本厄・後厄にあたる善男善女の方は是非お申込みください。

冥加料 5,000円(祈禱料)

※尚、豆まきのみ
のご参加は浄財
として賽銭(灯
明料)をお願い
致します。



季節の雑学

けんちん汁

温かな食べ物でほっこりしたくなる季節となりました。そんな折、ふと思い出すのが「けんちん汁」です。ごぼう、大根、人参、里芋、豆腐……素朴な素材を丁寧に炒め、だしで煮込んだこの汁物は、体だけでなく、心までもじんわりと温めてくれます。さて、「けんちん汁」という名前の由来には諸説ありますが、一説には鎌倉の禅寺・建長寺(けんちょうじ)にちなんでいると言われていています。建長寺では、700年以上も前から修行僧たちが日々の食事としてこの汁を口にしていたそうです。

けんちん汁には、豆腐をくずして入れるのが特徴ですが、そのきっかけとなった逸話も残されています。ある日、修行僧が豆腐を誤って落としてしまったところ、初代住職がそれを拾い集めて洗い、汁の中に加えたのだとか。食材を無駄にせず、命あるものを余すことなくいただくという仏教の精神が、そこには込められています。

寒さが深まるこの季節、けんちん汁を味わいながら、食のありがたさと心の温もりを感じてみてはいかがでしょうか。



参加ご希望の方は、お気軽にお問合せ・お申込みください。

西願寺 TEL. 048-925-1723 FAX. 048-925-1789

掲 示 板

彩の都メモリアルパーク管理事務所 年末年始休業のお知らせ

◆年末年始休業日◆

令和7年12月29日(月)～

令和8年1月3日(土)

年末年始の休業期間は管理事務所における事務手続き、電話問合せなどの業務はおこなえません。
尚 墓所へのお参りは通常通り開門しておりますのでご自由にご参拝ください。



彩の都メモリアルパーク管理事務所
TEL.048-921-4194 FAX.048-921-4195

西願寺 令和8年 年間行事案内

- ◎毎月25日 18時～別時念佛会
 - ※1月1日(休) 修正会 (新年を迎えての法要)
 - ◎1月7日(水) 開運七草粥の会・七福神巡り
 - ※1月25日(日) 法然上人御忌
 - ◎2月3日(火) 節分会 (豆まき厄払い)
 - ※2月15日(日) 涅槃会 (お釈迦さまの命日)
 - ◎3月17日(月) 春の彼岸会
～23日(日)
 - ◎3月20日(金) 合同彼岸会法要
 - ※4月8日(水) 灌仏会 (花まつり)
 - ◎5月25日(月) 大施餓鬼会
 - ◎7月13日(月) お盆会
～15日(水)
 - ◎8月9日(日) 新盆会・盂蘭盆会合同法要
 - ◎8月13日(木) 旧盆会
～15日(土)
 - ◎9月20日(日) 秋の彼岸会
～26日(日)
 - ◎10月23日(金) 十三夜お月見コンサート
 - ※11月23日(月) 十夜会 (念仏をとなえて善根をつむ法要)
 - ※12月8日(火) 成道会 (お釈迦さまのお悟りの日)
 - ※12月25日(金) 仏名会 (念仏をとなえて一年を反省する法要)
- ◎印は予定をたてて是非ご参詣ください。
※印は現在、寺だけで自主的に行っている法要です。



■お便り募集■

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんが」編集部
東京都千代田区麹町二・十・三・一〇二
F A X 0 3 (3 2 9 5) 1 3 0 2 Mail : info@io-comet

■次号予告

次号は令和八年二月発行予定の「春号」です。

令和8年 年回表

一周忌	令和7年逝去
三回忌	令和6年逝去
七回忌	令和2年逝去
十三回忌	平成26年逝去
十七回忌	平成22年逝去
二十三回忌	平成16年逝去
二十七回忌	平成12年逝去
三十三回忌	平成6年逝去
三十七回忌	平成2年逝去
五十回忌	昭和52年逝去
百回忌	昭和2年逝去



◆編集後記◆

今号は、3頁で「二祖対面」について掲載していません。法然上人が夢の中で善導大師と出会い念仏往生の教えを継承したとされるこのエピソードは、浄土宗の精神的な柱として、とても大切にされています。「二祖対面」は、法然上人が念仏の道を歩む決意を固め、善導大師の教えを受け継いだ瞬間です。法然上人の夢の中に現れた善導大師、時を超えて心が通じる。そんな奇跡のような出会いが、現在の私たちにも念仏の教えを届けてくれているのですね。

さて、今号は新年号です。そろそろ、年末の大掃除やお正月の準備を考える頃でしょうか？ 干支も、巳年から午年へバトンタッチ、今年もあつという間の一年でしたね。二〇二六年の干支である午年は、十二支の7番目にあたる年で、馬のようにエネルギーで前進力のある年とされているそうです。何か新しいことに挑戦するのにもいい年かもしれませんね。新年が皆さまにとって素晴らしい年でありますように。

発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三三四〇一〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三四〇一〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんか」編集部